

# コミュニティパワー国際会議2014 in 福島

開催報告

## 共催

- ・ 福島再生可能エネルギー事業ネット
- ・ 会津自然エネルギー機構
- ・ 名古屋大学丸山研究室「持続可能な風力利用研究プロジェクト」（三井物産環境基金助成案件）

## 協力

- ・ 福島会議
- ・ コミュニティパワー・イニシアチブ
- ・ REN21（21世紀のための自然エネルギー政策ネットワーク）
- ・ EU 第7次研究枠組み計画 CIVISプロジェクト
- ・ 自然エネルギー財団
- ・ 脱原発をめざす首長会議
- ・ エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議
- ・ 100%自然エネルギー世界キャンペーン
- ・ パタゴニア日本支社

## 後援

- ・ 福島県
- ・ 福島市
- ・ 喜多方市
- ・ 南相馬市
- ・ ドイツ大使館
- ・ デンマーク大使館
- ・ スウェーデン大使館
- ・ カナダ大使館
- ・ 駐日欧州連合代表部
- ・ 農林水産省
- ・ 環境省
- ・ 経済産業省
- ・ 復興庁

## 特別協賛

- ・ 新日本有限責任監査法人
- ・ 地球環境基金
- ・ フリードリヒ・エーベルト財団



## 開催概要

	第0目 1/31(金)
会場	南相馬市
午前	現地視察
午後	タウンミーティング
	交流会

	第1日目 2/1 (土)
会場	福島市
午前	全体オープニング
	基調講演&基調パネル
午後	セッション1A リーダーシップと起業家精神
	セッション1B 人材育成と場づくり
	セッション2A 地域政策と地域経済
	セッション2B 自然エネルギーと社会的合意
	全国ご当地電力勢揃い
	「福島コミュニティパワー基金」発表
	交流会

	第2日 2/2 (日)
会場	会津喜多方
午前	移動 (福島市→会津)
午後	セッション3A ネットワーキング
	セッション3B ファイナンス
	セッション4A 自然エネルギー100% 地域のエネルギー自立とデモクラシー
	セッション4B コミュニティパワーラボ
	各セッションのまとめ
	「福島コミュニティパワー宣言」採択
	交流会

## 第0日目 南相馬タウンミーティング

日時：2014年1月31日（金）14:00～16:30

場所：南相馬市民文化会館 ゆめはっと

時間	プログラム
9:30	福島市内出発
11:00	現地視察 ・津波・原発事故被害状況視察（小高地区） ・南相馬ソーラー アグリパーク
13:20	昼食（南相馬市民文化会館ゆめはっと）
14:00	開会挨拶 ・高橋荘平（えこえね南相馬研究機構 理事長） ・桜井勝延 南相馬市長
14:15	講演：「オーストラリア初の市民風車の誕生とその後」(逐語通訳) タリン・レーン（ヘップバーン風力協同組合／エンバーク）
14:45	ラウンドテーブルダイアログ パネリスト： ・高橋荘平（えこえね南相馬研究機構 理事長） ・鈴木和夫（日立パワーソリューションズ 取締役） ・ステファン・ゼンガー（世界風力エネルギー協会） ・ステファン・シュリーグ（世界未来協議会） ・ソーレン・ハーマンセン（サムソ・エネルギー・アカデミー） ・タリン・レーン（ヘップバーン風力協同組合／エンバーク） ・ハリー・フレンチ（オンタリオ持続可能性サービス） ・アンドレア・プラール（ドイツ環境経済研究所） ・リンダ・オオハマ（映画監督） コーディネーター： ・飯田哲也（環境エネルギー政策研究所）
16:00	中学生からの感想・メッセージ オーストラリアを訪問した南相馬市の中学生
16:20	閉会挨拶 ・飯田哲也（環境エネルギー政策研究所）
16:30	タウンミーティング 終了
17:30	交流会（屋台村）

## 概要報告



### 被災地視察

海外ゲストと主催者は、1月31日朝に東京を出発し、福島駅からバスで南相馬に市向かいました。地震・津波・原子力という複合災害の被害がいまなお色濃く残る小高地区を見てまわり、一行は改めてその現実を受け止めました。

その後、太陽光発電の体験学習を通じて子供たちの成長と地域の復興をめざす「南相馬ソーラーアグリパーク」を訪れました。地元出身で元東京電力役員員の半谷栄寿代表と、現地スタッフによる講義を受け、ソーラーアグリパークでの太陽光発電と体験学習について学びました。



### タウンミーティング

タウンミーティングでは、高橋荘平えこえね南相馬研究機構理事長、桜井勝延南相馬市長の開会挨拶の後、オーストラリア初の市民風車を成功させた「ヘップバーン風力共同組合」のタリン・レーンさんが講演をおこないました。プロジェクトの構想が生まれたきっかけ、計画から建設までの険しい道のりや、アーティストに風車にイラストを描いてもらい、風車により親しんでもらう取り組みをおこなっていること、このプロジェクトをきっかけにオーストラリアの各地で同様の取り組みの芽が育ちつつあることが報告されました。

ラウンドテーブルダイアログでは、現地での風力発電プロジェクトの構想とその実現に向けての課題や、地域の参加について議論がおこなわれました。

最後に、前年の春にヘップバーン市民風車を訪問した中学生5人が、南相馬での未来のエネルギーについてメッセージを発表しました。



## 第1日目 コミュニティパワー国際会議（福島市）

日時：2014年2月1日（土）10:00～17:30

場所：福島県文化センター

時間	プログラム		
10:00	開会挨拶	東之弘（福島再生可能エネルギー事業ネット代表、いわき明星大学教授）	
10:15	基調講演	「100%自然エネルギー社会の実現」 ステファン・シューリグ（世界未来協議会）	
10:50	基調パネル	コーディネーター：飯田哲也（ISEP） 赤坂憲雄（ふくしま会議） 植田和弘（京都大学） 金子勝（慶応義塾大学） トーマス・コーベリエル（自然エネルギー財団） ソーレン・ハーマンセン（サムソ・エネルギー・アカデミー）	
11:45	フィルムトーク「東北の新月」 by リンダ・オオハマ 「パワー・トゥー・ザ・ピープル」 by ソーレン・ハーマンセン わたちたち電力 by 鈴木菜央		
13:00	パラレルセッション1	セッション1-A： リーダーシップと起業家精神 飯田哲也 トーマス・コーベリエル ソーレン・ハーマンセン エリック・マーティノー 鈴木梯介 鈴木亨 遠藤由美子	セッション1-B： 人材育成と場づくり 古屋将太 ステファン・ゼンガー ハリー・フレンチ 原亮弘 服部乃利子 山川勇一郎 平尾譲二 中西悦子
		セッション2-A： 地域政策と地域経済 松原弘直 ピーター・モーザー アンドレアス・ブラール ハリー・フレンチ ラウパッハ・スミヤ・ヨーク 田中信一郎 高橋洋	セッション2-B： 自然エネルギーと社会的合意 分山達也 タリン・レーン 丸山康司 市川大悟 辻村千尋 浦達也 斉藤哲夫 江原幸雄
14:30	休憩		
14:45	パラレルセッション2	セッション2-A： 地域政策と地域経済 松原弘直 ピーター・モーザー アンドレアス・ブラール ハリー・フレンチ ラウパッハ・スミヤ・ヨーク 田中信一郎 高橋洋	セッション2-B： 自然エネルギーと社会的合意 分山達也 タリン・レーン 丸山康司 市川大悟 辻村千尋 浦達也 斉藤哲夫 江原幸雄
		国内外の「ご当地電力」勢揃い <コミュニティパワー・イニシアチブ>	
17:15	「福島コミュニティパワー基金」の設立について		
17:30	終了		

## 概要報告



### 基調講演&基調パネル

ステファン・シューリグ氏による基調講演では、世界が直面しているエネルギー問題、気候変動問題などに対して、ドイツをはじめとして世界各地で自然エネルギーの導入が加速しており、そのプロセスにおいて市民の参加がきわめて重要な意味をもっていることが述べられました。基調パネルでは、福島および日本のエネルギー・原発問題が取り上げられ、コミュニティパワーの推進が解決策として大きな意義をもつこと、課題を乗り越える上で地域の協働の重要性が述べられました。

### 1-A：リーダーシップと起業家精神

セッション1-Aでは、自然エネルギー事業を地域で推進していくにあたって求められるリーダー像に関する議論が行われました。コミュニティパワーを実現していくには社会全体の仕組みにおける革新と、地域や地方自治体のリーダーシップが必須であり、それらを基盤にして経済的利益の最大化というビジネス上の利益のみならず、地域が自立して誇りが生まれるような社会的利益が地域にもたらされ、それらをさらに拡大していく取組が求められています。

### 1-B：人材育成と場づくり

セッション1-Bでは、異なる興味、関心を持つ人々が集まる場をいかにつくり、能力形成をしていくかということが議論されました。地域でそのような取組を進めていくためには、まずバックグラウンド、興味関心、利害の異なる人々が、ワークショップ等での意見の可視化を通して共通点を見つけ、ビジョンを共有することが重要であると述べられました。地域主導型の自然エネルギー事業の人材育成における能力やスキルは、大きく分けて、人と人の関係性を築いていくコミュニティキャパシティと技術や経済など専門的な知識を使いこなすプロフェッショナルキャパシティがあります。この2つを高め、組み合わせることで事業を具体化させることができ、さらにその事業そのものがプラットフォームとなってつながりや人材育成の場となることが述べられました。

### 2-A：地域政策と地域経済

セッション2-Aでは、地域の資源を活用してそれを地域内で循環させていく自然エネルギーの経済的側面に関する議論が行われました。相互に特徴を持ったドイツと長野県の政策が紹介されました。ドイツの事例として政策実施による地域への経済効果の定量的な分析に関する報告が行われ、日本でもドイツをモデルとした地域経済効果の評価への機運があり、今後の発展が期待できるのではないかと報告がなされました。また、オンタリオ州での経済政策としてのコミュニティパワーの実施例が紹介され、日本としても自治体と国の政策の相乗効果を生み出すような取り組みの必要性が強調されました。

### 2-B：自然エネルギーと社会的合意

セッション2-Bでは、自然エネルギーの導入への期待が高まる一方で、地域コミュニティには自然環境への影響に対する不安をはじめ、様々な意見があることを背景に、コミュニティと事業者の対立を避け、いかに合意形成をはかっていくかが議論されました。環境エネルギー政策研究所と自然エネルギー財団が協働で行ってきた研究会の報告を行い、オーストラリアのタリン・レーン氏が海外の事例を発表するとともに、事業者と日本野鳥の会などの環境保護団体双方からの意見の発表が行われました。それぞれの地域の課題について、地域で対話によって解決策を模索することの重要性が述べられました。

## 第2日目 コミュニティパワー国際会議（喜多方市）

日時：2014年2月2日（日）13:00～18:00

場所：喜多方プラザ文化センター

時間	プログラム	
13:00	開会挨拶	五十嵐乃里枝（会津自然エネルギー機構代表理事）
	基調メッセージ	赤坂憲雄(ふくしま会議代表理事、福島県立博物館館長)
13:40	パラレルセッション	セッション3-A： ネットワーキング
		セッション3-B： ファイナンス
		古屋将太 ステファン・ゼンガー ハリー・フレンチ タリン・レーン 小田切奈々子 小椋真弓 北原まどか
		伊藤宏一 河口真理子 末吉竹二郎 吉原毅 鈴木亨 海部愛
15:00	休憩	
15:20	講演	「自然エネルギー未来展望」 エリック・マーティノー（ISEP）
15:50	クロージングセッション	セッション4-A： 自然エネルギー100%～地域のエネルギー自立とデモクラシー
		セッション4-B： コミュニティパワー・ラボ
		飯田哲也 ピーター・モーザー ソーレン・ハーマンセン 田中信一郎 佐藤彌右衛門 高橋浩人 保坂展人 ステファン・シューリグ 倉阪秀史
		山下紀明 志澤昌彦 政処剛史 守屋由紀枝 小澤敏晶 半沢彰浩 マーセル・カイヘンハイム 戎谷徹也
17:10	まとめ	セッションチェアからの報告
17:50	閉会挨拶	「福島コミュニティパワー宣言」採択
		主催者より閉会挨拶（佐藤彌右衛門、飯田哲也）
18:00	終了	

## 概要報告



### 3-A：ネットワーキング

セッション3-Aでは分散型エネルギーを実現する上で重要な側面であるネットワーキングに関する議論が行われました。その中でまず、三層のネットワークとしてご当地グルメなどを通じたフェイス・トゥ・フェイスのネットワーク、インターネットメディアなどを活用したバーチャルなネットワーク、そして各地域の取り組みを相互に学習できるような広域のネットワークの重要性が強調されました。さらに、それぞれのネットワークの情報発信で人の輪を拡大していくためには、“楽しい”、“おいしい”、“かわいい”を、いわば「コミュニティパワーネットワークの三原則」として、誰もが関わることのできる場づくりを行うことが重要と話されました。

### 3-B：ファイナンス

セッション3-Bでは自然エネルギー事業に向けたファイナンスに関する議論が行われ、現在の暴力的な金融資本主義の金融ではなく、自然や地域に祝福されるような“きらきらしたお金”による革新的な金融を行い、拡大していく必要があるのではないかという提案がなされました。富山県を事例に、3・11を契機とした市民、国や政府、そして地域金融機関における自然エネルギーに対する姿勢の変化や、自然エネルギーに対する出資を拡大することの必要性が共有されました。その中では、補助金ではなく地域自然エネルギー事業への融資を促進する重要性が強調されました。全体として、市民電力を支えるお金が循環しはじめており、それにともなって解決すべき新たな課題も生まれてきている現状が共有されました。

### 4-A：自然エネルギー100%～地域のエネルギー自立とデモクラシー

セッション4-Aでは、自然エネルギー100%を目指す取り組みの国際的な潮流を事例から導きだす議論がされました。ここでは長野県、世田谷、福島や大潟村などの国内の事例の紹介のみならず、ドイツやサムソ島などの国外において行われている取り組みが紹介され、それぞれの特徴を活かした取り組みに関する報告が行われました。数多くの事例紹介を通して、自然エネルギーを中心に据えた取り組みのなかで、それぞれの地域の自立性を高めるためにどのような民主的なプロセスを経ていくことが求められるのかということに焦点をあて、様々な課題が共有されました。

### 4-B：コミュニティパワー・ラボ

セッション4-Bでは、環境エネルギー政策研究所が政策と制度、学びと創造、繋がりと協働をキーワードとして主催しているコミュニティパワー・ラボの報告とともに、国外での取り組みに関する報告が行われました。その中で、事業者と行政、生産者と供給者との円滑な連携体制の構築の必要性が共通に認識されている課題として提示されました。また、ドイツの事例からエネルギーを生産し、かつ供給するプロシューマーが日本でも増加することが予想され、そういったプロシューマーを増やすためのアドバイスもなされました。

## 福島コミュニティパワー宣言

巨大な原発事故が起こった。  
いま、怖るべきモラルハザードが始まっている。

われわれは、人智が制御しえぬモノに、われわれの未来を委ねることを拒絶するか、それとも思考停止のままに受容し続けるのか、という分岐点に立たされている。  
福島の人々はすでに早く、原発事故の三カ月後には、原発に依存せずに持続的に発展してゆく将来へのシナリオを選択し、それを宣言した。

しかし、この福島意志は無視され、黙殺されてきた。

いま、福島に踏みとどまり、そこで生きてゆくことは、見えない生存の不安のなかで、まったく新しい暮らしと生業のスタイルを創造してゆく努力なしには不可能である。  
傷付き、足掻いている福島は、あくまで前向きにみずからの将来を創造してゆく、そのための始まりの土地になりたいと願う。

再生可能エネルギーとは、風土とテクノロジーの結婚である。  
それはわれわれにとって、地域社会の自治と自立のための大切な拠り所であり、方法である。

われわれは原発事故によって深く傷付いた福島の地に拠るがゆえに、原子力エネルギーという人智が制御しえぬ荒ぶる神の火を捨てようとしている。  
そうして、風や陽光や水の流れ、大地の熱や森の間伐材などからエネルギーを贈与していただく再生可能エネルギーへの転換を進めてゆくことを願う。  
人と自然との境界が引き直されねばならない。

福島はいま、再生可能エネルギーを携えて、始まりの土地になろうとしている。  
そして、福島が率先して変化を起こすことで、日本各地が変わり、世界が大きく変わってゆくにちがいない。

そのために私たちは、今日この福島の地で、以下の3つの行動を約束する；

- ・このネットワークを活かして「21世紀の電事連」を立ち上げる
- ・福島からの変革を支援するための「福島コミュニティパワー基金」を立ち上げる
- ・いま、ここから歴史を変える

2014年2月2日 喜多方

## 海外ゲスト感想メッセージ



ステファン・シューリグ

福島でのコミュニティパワー会議はたいへん素晴らしいと思いました。100%自然エネルギーに向けて動き出すコミュニティが直面する複雑な問題を解くには、専門家による対話、関心のある市民による対話、実践する人々による対話が必要なのです。そういった対話に満ちていた今回のコミュニティパワー会議は私にとって特別なイベントになりました。



ステファン・ゼンガー

津波と原子力の被災地について、もちろん、メディアでは見聞きしていましたが、実際に訪れて非常に強い印象を覚えました。そして、日本の全国各地、さまざまなレベルで多くのコミュニティパワーの取り組みが展開している様子を見て、たいへん励まされました。特に、福島県内ですでに草の根でコミュニティパワーの取り組みが始まっていることに勇気づけられました。



ソーレン・ハーマンセン

毎回、来日する度に日本のコミュニティパワーはより良い方向に発展しています。福島では大きな災難があったにもかかわらず、人々はお互いの文化や言葉を学んでより良いコミュニケーションを積み重ねているように思います。



タリン・レーン

本当に大きな悲劇を経験したこの福島に大きな注目が集まっていることをうれしく思いました。また、知恵と思いやりをもったみなさんが集まり、どのように福島のコミュニティが前に進んでいくことができるかを考える場を協力して開催したことは素晴らしいと思いました。3つの開催地それぞれの地域の人たちの取り組みを素晴らしく思いましたし、若い人たちの参加や女性の参加が多かったことも重要だと思いました。



ハリー・フレンチ

私はこれまでカナダでコミュニティパワーの多くの取り組みに関わってきましたが、日本でもさまざまな人たちがイニシアチブをとって、積極的にコミュニティパワーに取り組んでいる様子を見て、非常に励まされましたし、新しいアイデアも得ました。改めて、会議に招待していただきありがとうございました。



ピーター・モーザー

素晴らしい取り組みをおこなっているたくさんの人たちに会い、興味深いテーマで議論が交わされ、100%自然エネルギーが私たちにとって重要なものになっていることがわかりました。私もこれから未来に向けて全力を尽くしますし、一緒に100%自然エネルギーに向けて進んでいきましょう！



マーセル・カイヘンハイム

今回のコミュニティパワー会議では、専門家だけの議論ではなく、一般の人たちも交えての議論だったのでたくさんのインスピレーションを得ました。参加者は専門家の話を聞くだけでなく、参加者同士で話し合い、知見を交換し、100%自然エネルギーに向けて、お互いを助け合っていたことが印象的でした。

**認定NPO法人 環境エネルギー政策研究所**

〒164-0001

東京都中野区中野4-7-3

TEL: 03-5942-8937

FAX: 03-5942-8938

<http://www.isep.or.jp>